

# 「会報」 山 弓 連

平成19年2月 発行

## 山梨県弓道連盟 平成18年度 納射会

平成18年12月10日(日) 小瀬武道館弓道場参加申し込み選手68名競技開始 午前9時50分  
平成18年の最後を飾る、県連納射会が開催されました。開会式のあと、矢渡しが行われ、当番支部の演武披露があり、南アルプス支部・5人持的射礼、甲府支部・3人一つの射礼を披露され、特に今回は、南アルプス支部の若い女性のみのもち的射礼は、全員目にも鮮やかな和服姿で、目を見張るものがあり、その華やかさに感激しきり、体配、所作も、稽古の成果がみられ、すばらしい出来ばえであった。

成績(計6射)

	氏名	段位	所属支部	的中数	備考
優勝	中込康之	三段	南アルプス	6	
2位	若杉年久	五段	笛吹	5	競射
3位	市川 明	五段	笛吹	5	競射

6中者	中込康之	同中競射全員の、 しかも的心近の、 審判の判断を悩ませる
5中者	市川 明・若杉年久 佐野辰巳・河西伊三男	

## 平成19年 初射会 大会結果

平成19年1月7日(日) 小瀬武道館弓道場 参加申し込み63名

▽優勝 矢頭恵造 大月支部 5中
5中者4名による射詰競射により順位確定
▽2位 矢崎貴恵 山梨支部 5中
3名により遠近競射により順位確定
▽3位 宮下貞雄 上野原支部 5中
3名により遠近競射により順位確定

厳しい寒さの中、時には雪が無い落ちることもあり、多数の参加を得て、天野会長の千射万箭悉皆新也の挨拶をいただき、厳粛の雰囲気の中、河西教士による矢渡しが行われ、1手祝射に続き4射の競射が行われました。  
閉会式には、講評として、秋山副会長の基本を正確に守って行射してもらいたいと厳しいご指摘をいただき、終了しました。

番号	氏名	支部名	段位	I	II	合計	競射記録	順位
22	矢崎貴恵	山梨	四段	○ ○	○ × ○ ○	5	○ × × ×	
31	矢頭恵造	大月	五段	○ ○	○ ○ ○ ×	5	○ × × ○	1
32	矢野宏幸	笛吹	五段	× ○	○ ○ ○ ○	5	○ × × ×	
56	宮下貞雄	上野原	練五	○ ×	○ ○ ○ ○	5	○ × × ×	

## 高校3年生弓道大会 平成19年2月17日(土) 小瀬武道館弓道場

高校3年生と一般各支部員との交流と、3年生の在籍中の最後の思い出をのこし、将来も弓道の継続への動機づけを図る為開催されました。寒さの中若くはつらつとした行射がおこなわれ、特に五色板割りははじめての経験ではないかと思われました。以下成績(8射) 優勝8中 志村友哉(巨摩) 2位7中 小倉昌(塩山) 3位7中 笠間徹(北杜) 4位7中 深沢広志 5位6中 窪田優輝 五色板割 今村裕太(市川) 清水 郁(甲工) 和田直子(増穂商) 池田昌也(石和) 山城大士(甲府南) 雨宮大樹(甲工) 堂園達也(北杜) 志村友哉(巨摩) 長田美穂(甲府商) 雨宮敬典(園芸)

平成18年度(6回目)2/18 審査報告 審査部長 佐野					
段級位	受審者	合格者	合計	欠席者	備考
査定	41				
3級					
2級		1			
1級		31			

段級位	受審者	合格者	合計	欠席者	備考
査定初段		10			
初段	25	9			
二段	17	10		1	
三段	6	1			
四段	6	2			
合計	95	64		1	

18日の審査は期末試験のため受審者が少なかったような気がします。

受審支部一般は5支部・高校は14の学校が協力してくださいました。

1年生の中に射型のよい人が目に付きました。本年の審査はこれで終了しました、来年度もお願いします。部長 佐野

## 平成18年度山梨県(甲府市)地域社会武道(弓道)指導者研修会 受講報告

平成18年10月21日(土)～22日(日)

山梨県小瀬スポーツ公園・武道館弓道場

講師・中央講師 範士八段 窪田史郎先生 範士八段 川村光良先生

山弓連講師 範士八段 中沢利正先生 教士六段 天野 裕先生

秋たけなわの爽やかな弓道日和のなか、小瀬弓道場において標記の研修会が行われました。受講生一同緊張した面持ちで研修会に臨み、まず、準備体操で体をほぐし、開講式が始まりました。国旗拝礼を行い、天野 山弓連会長、日本武道館 山田振興部長、山梨県体育協会 上野事務局長の挨拶をいただき、主任講師 窪田史郎先生の研修会の意義、心得等のご挨拶をいただき、開会式を閉じました。

窪田先生の矢渡しを受講生一同真剣な眼差しで見学させていただき、尚一層真剣に受講する意識が高まり身の引きしまる思いがいたしました。川村先生の介添え指導で、矢渡しにおいて介添えはまず射手に気脈を通じ、射手に配慮しなければならぬ、また見学者はまず射手に意を注ぎ、介添えの方をきょろきょろと目を移すことの無いようにすべきだと、注意がありました。引き続き全員が審査方式で一手行射をし、窪田、川村両講師による個別指導で、一人ひとりに問題点の指摘があり、日頃の悪癖など指導され、一語一句も漏らさず聞き逃すまいと真剣に聞き入っていました。

昼食後の川村先生の射礼(介添えなし)は、そのすばらしさに一同息を呑みながら見学させて頂き、広い道場にただ一人、その威厳と凛とした姿はその広さをご自分のものにして、射場からの射まで一体となって行う射礼は、先生の日頃の稽古が、どんなものかを想像に難くない感がいたしました。引き続き、4人の講師の先生の班別個人指導に入り、一人ひとり射技の手をとって指導いただきました。厳しい指導に我々受講生は自分の日頃悩んでいる射を如何に直していくかを実感しながら、4人の先生に順次ご指導いただきました。第一日目の最後は、基本体、基本動作、姿勢の確認で、全員道場内を息合いに合わせるよう指導を受け、歩行しながら、講師先生の厳しい叱咤の声を聞き動作、姿勢を確認していました。

第二日目はまず、窪田、川村、中沢、天野先生による一つの射礼の模範演武を見学し、二日目の研修会を真剣な気構えをもって臨み、射礼研修に入りました。窪田先生は射礼の意義を「射は、礼に始まって礼に終わる」といわれているように、時、所、位、をわきまえ、その動作は莊重優雅に、その心は純真清澄に、射と礼が渾然融和して、一箭に誠をつくすことが弓道の本旨である」と、教本を引用され説かれました。引き続き2射場に別れ、緊張の中で、持的射礼(錬士五段まで)と一つの射礼(六段以上)の指導をうけました。特に私の担当の持的射礼においては、息合いが合わず、しばしば川村先生の厳しい叱咤の声に緊張の度合いは極度に達し、心配も思うに任せず、難渋していました。昼食をはさみ、午後は昨日同様の射技指導で四班に分かれ順次各先生の指導を受けました。窪田先生は体の前で両こぶしを握り左右広げ、伸びろ!伸びろ!と体で表現なされ、その動作は重さをも感じ、伸び合いの重要性を実感いたしました。川村先生の道場内に響き渡る、会に入っの、まだ!まだ!まだ!の叱咤の声は、先生の言われた、「伸び合いの無い弓は弓道ではない!」を尚尚心に染み入る思いで体感していました。最後に総仕上げとして、審査方式一手行射に入り、川村先生の「いいところを見せようと思って引いては駄目ですよ!指導を受けたところを忠実に守って引きなさい」、の声を聞き、まさに真剣そのものに道場に立ちました。

一連の指導は終了を迎え、総評(各講師)があり、天野先生は、気は技に勝ると言います、日頃は常にそれを意識して稽古するように。中沢先生は指導者としての自覚を持ってこれからも後輩の指導に当たって行くこと期待する。川村先生は、弓道は気力の充実が最も大切あり、そのためには無限の伸び合いに徹して、身体全部を使っの弓射を意識すること、そして、潜在的な力がまだまだ隠されていると思うのでギリギリの限界まで(例えて火事場の馬鹿力のように)挑戦し、一箭に尽して頑張ってもらいたい。窪田先生は、弓道は射礼である、射技と礼法が不離一体となっこそ上達するもので、そのためには必ず、毎日の練習に射礼形式にて稽古を一回は取り入れて、息合いに即した体配を身に付けて欲しい。そうすることによって動作も射も生きてくるものである。各先生の心に染み入る講評をいただき、一同、ありがとうございました、とお礼を申し上げました。天野会長により修了証書が代表に授与され、研修会は終了いたしました。今回の研修を終え、日頃自分の道場での稽古は妥協の稽古であったと反省するところです。限界まで自分を追い込み、射と礼は不離一体であることを肝に銘じて、稽古に励みたいと強く感じ入った研修会でありました。(日本武道館提出原文)(新藤康平)

編集後記・今号は編集者自らの拙い報告書を1ページに及ぶ紙面を割り掲載することになりお恥ずかしい限りでございます。尚、今年度最後の会報「山弓連」です、1年間発行にご協力ありがとうございました。新年度もすばらしい記事の寄稿を宜しくお願い申し上げます。